

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ ふるさと納税の返礼品

今年1月末。本市に工場のある東京の本社を順次挨拶回りした際に、同席していた本社の職員から出し抜けに「豪華返礼品の開始はまだですか」と、ふるさと納税(本市では「サポート寄附」と名付けています)について質問を受けました。最近、どこも返礼品の豪華さで、納税額を競うかのような様相を呈する時代になった感があります。本市は、「サポート寄附」の名称どおり、ふるさと納税制度の運用を、少々古典的に、ややピュアに取り組み過ぎてきたのではないだろうか。返礼品があれば、納税額に見合う地元の特産品や名産品を本市が買い上げ、返礼品の名のもとに送り届け、もっと本市の魅力在全国に紹介する一つの機会に活用できたのではなかったのか。少し遅ればせながら、今、担当課でそうした反省のもと新たな取り組みが始まろうとしています。まず、事業者は返礼品について、市への登録をいただく。既存の商品に加え、返礼品限定の商品も大歓迎です。たくさんのご連絡があることを期待しています。納税してくださった方には写真入りのカタログの中から納税額に見合った品を選んでいただき、本市から全国にお届けするといった方法で、6月から実施する予定と聞いています。どうか楽しみにしておいてください。ちなみに、「他市町村」に住んで市民税をその「他市町村」に支払っているみなさん全員が対象ですので、他市から本市に通勤されているみなさんも、どうぞご利用くださいね。

■ 厚狭・鴨橋がもうすぐ開通します

古い歴史があり、地域のみなさんにも親しまれている厚狭の鴨橋が、平成22年7月15日の水害以来不通になり、地域のみなさんにはさんざんご不便をかけてきましたが、ようやく今月18日に鴨橋の工事が完了する旨、山口県宇部土木建築事務所から連絡がありました。現在、使用を開始する日程等を調整しています。

あの水害以来、県も本腰を入れて、大正川のポンプ場に予定されたポンプ3基の設置、桜川の流水量確保のためJR山陽本線の地下のバイパス新設、厚狭川本体や桜川上流の護岸整備、厚狭川の浚渫、鴨橋を含む橋梁の新設など、随分、負担とご苦勞をいただきました。大水害の当日と翌日の二日間にわたり、大型バス2台に分乗した県の職員が駆けつけてくれ、駅前商店街を中心に、人家の床下に溜まったヘドロの掻き出しのため泥まみれになりながら汗を流してくださった光景が、改めてまぶたに浮かびます。併せて、救援の職員を乗せたバスが県庁の正面玄関を出発するに当たり、知事が出発する全職員を対象に二日にわたって激励のあいさつをされたとか。また、二日目、帰路のバスから県の所属部長に宛てた職員のメールに、「はじめて公務員の原点を学んだような気がします」というものがあったそうです。

そんな、みなさんのおかげで、厚狭の町も「水に弱い町」から「水に強い町」に大きく変貌しようとしています。